

個体差健康科学 (全学連携地域包括ケア実践演習)

- 《履修上の留意事項》1.この講義は令和3年8月4日(水)、8月5日(木)、8月6日(金)に実施する。原則的に単位取得のためにはすべての講義・演習に出席しなくてはならない。
 2.全学部(専門学校含む)混成のグループで演習・話し合いをおこなう。
 3.患者・当事者、家族らがケアを受けている医療福祉施設や自宅、自助サークル活動などに、大学よりオンラインでリアルタイムに訪問・参加し演習をおこなう。そのため体調管理、身だしなみ、言動に充分留意すること。教員が不適当と判断した場合には、演習に参加させない。その場合は、「失格」として扱う。
 4.履修を希望する者は、本科目に関する説明会に出席する必要がある。説明会の日程については掲示版、i-portal等で連絡する。

《担当者名》薬学部： 浜上 尚也、櫻田 渉、岩尾 一生
 歯学部： 越野 寿、永易 裕樹
 看護福祉学部： 竹生 礼子、川添 恵理子、○巻 康弘、中田 雅美
 心理科学部： 安部 博史、福田 実奈
 リハビリテーション科学部： 澤田 篤史、 本家 寿洋、 黒崎 芳子
 医療技術学部： 小野 誠司
 歯科衛生士専門学校： 岡橋 智恵、秋元 奈美

【概要】

多職種連携は、患者・当事者、家族らと多職種の専門家が連携して、保健・医療・福祉の現場において、患者・当事者、家族らのケアの質や社会的課題の解決・解消を通じた、QOL(Quality of Life:人生の質、生活の質)の向上のために協働することである。現代の保健・医療・福祉において一人の専門家がその知識や能力を駆使して、単独で課題を効率的に解決するという事は不可能である。互いに異なる知識・能力をもつ複数の専門家が協働することが必要とされる。

本講義では、多職種連携の実態を知り、得られた知識について話し合いまとめることを通して、保健・医療・福祉の分野における多職種連携について学ぶことを目的とする。具体的には、地域包括ケアにおける業務を、多職種連携の観点に注目しながらオンラインで見学する。多職種が連携して取り組む課題を明らかにする。専門職、患者・当事者・家族らに対してウェブカメラ等を用いてインタビューする。得られた情報をもとに自分の専攻とは異なる学科の学生とともにディスカッションを行い、多職種連携に関する知識と考えをまとめる。

【学修目標】

- 多職種連携の理念、意義と実践について理解できる。
- 患者・当事者、家族らのニーズを把握し、正しく認識できる。
- 患者・当事者、家族らを取り巻く社会と、地域包括ケアの現状と課題について理解できる。
- 地域包括ケアにおける多職種連携のあり方を理解することができる。
- 地域包括ケアにおいて自分の職種および他の職種が果たす役割について理解できる。
- 異なる職種を目指す学生と良好なチーム関係を構築し、課題の抽出、解決に向けた話し合いができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1・2	オリエンテーション・講義	<ul style="list-style-type: none"> ・講義全体の目的と内容、進め方の説明 ・演習の流れおよび演習態度(服装・個人情報の保護) ・グループ作り、役割決め ・講義「地域包括ケア」「多職種連携協働」 	浜上 尚也 櫻田 渉 岩尾 一生 越野 寿 永易 裕樹 竹生 礼子 川添 恵理子 巻 康弘 中田 雅美 安部 博史 福田 実奈 澤田 篤史 本家 寿洋 黒崎 芳子 小野 誠司 岡橋 智恵 秋元 奈美
3~5	グループワーク・カンファレンス1	<ul style="list-style-type: none"> ・見学演習するケースに関する資料の読み込み・ICFの作成 ・職種別の検討：確認する点、疑問点、演習時に患者・当事者、家族および専門職に対して質問する内容の作成 ・多職種による検討：各職種からの意見の共有。確認する点、疑問点、演習時に患者・当事者・家族、および専門職に対し質問する内容の作成 ・カンファレンス1：演習グループ毎に教員を加えてケースカンファレンスをおこなう。 	浜上 尚也 櫻田 渉 岩尾 一生 越野 寿 永易 裕樹 竹生 礼子 川添 恵理子 巻 康弘 中田 雅美 安部 博史 福田 実奈 澤田 篤史 本家 寿洋 黒崎 芳子 小野 誠司 岡橋 智恵 秋元 奈美

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
6・7	演習 1	<ul style="list-style-type: none"> ・演習前ブリーフィング ・多職種連携協働によりケアがおこなわれている現場を、グループ毎にオンラインでウェブカメラ等を介して、訪問し見学する。 ・患者・当事者・家族、および専門職に対して準備したインタビューをおこなう。 	浜上 尚也 櫻田 渉 岩尾 一生 越野 寿 永易 裕樹 竹生 礼子 川添 恵理子 巻 康弘 中田 雅美 安部 博史 福田 実奈 澤田 篤史 本家 寿洋 黒崎 芳子 小野 誠司 岡橋 智恵 秋元 奈美
8～10	グループワーク・カンファレンス 2	<ul style="list-style-type: none"> ・個人でまとめをおこなう。ICFを修正する。 ・学科別に見学したケースの報告と専門的な対応および多職種連携協働のあり方について、教員を交えて話し合う。 ・グループにもどり、自分の職業の専門的な対応と多職種連携協働のありかたについて意見を交換する。 ・現在おこなわれている支援の必要性について文章でまとめる。 ・グループ毎に、自分たちが考えるサポート案を作成する。 ・学科別の話し合い、多職種による話し合いの中で挙げられた疑問点や確認するべき点をもとに、次回訪問時のインタビューリストを作成する。 	浜上 尚也 櫻田 渉 岩尾 一生 越野 寿 永易 裕樹 竹生 礼子 川添 恵理子 巻 康弘 中田 雅美 安部 博史 福田 実奈 澤田 篤史 本家 寿洋 黒崎 芳子 小野 誠司 岡橋 智恵 秋元 奈美
11・12	演習 2	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の課題や対策の必要性について、患者・当事者・家族、および専門職に自分たちの理解を説明する。 ・自分たちが考える支援案について、専門職と話し合う。 	浜上 尚也 櫻田 渉 岩尾 一生 越野 寿 永易 裕樹 竹生 礼子 川添 恵理子 巻 康弘 中田 雅美 安部 博史 福田 実奈 澤田 篤史 本家 寿洋 黒崎 芳子 小野 誠司 岡橋 智恵 秋元 奈美
13～15	グループワーク・カンファレンス 3・ミニ発表会	<ul style="list-style-type: none"> ・個人でまとめをおこなう。ICFを修正する。 ・学科別に見学したケースの報告と専門的な対応および多職種連携協働のあり方について、教員を交えて話し合う。 ・グループにもどり、自分の職業の専門的な対応と多職種連携協働のありかたについて意見を交換する。 ・グループ毎に学んだことをICFをもとに簡潔に発表する。 ・レポートを作成する（評価対象） 	浜上 尚也 櫻田 渉 岩尾 一生 越野 寿 永易 裕樹 竹生 礼子 川添 恵理子 巻 康弘 中田 雅美 安部 博史 福田 実奈 澤田 篤史 本家 寿洋 黒崎 芳子 小野 誠司 岡橋 智恵 秋元 奈美

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

- ・演習状況および提出物をもとに総合的に評価する
- ・演習目標到達度70%、記録物30%

【参考書】

参考書1：北島政樹 編 「医療福祉をつなぐ関連職種連携」 南江堂 2013

参考書2：埼玉県立大学 編 「IPWを学ぶ 利用者中心の保健医療福祉連携」 中央法規 2009

【備考】

その他：学部混成のクラスを編成して授業を行う。

【学修の準備】

- ・事前に指示された以下について予習をおこなうこと。地域包括ケアシステムを概説する文章を読む。関連する用語・制度につ

いて調べる（例：地域包括ケア、後期高齢者、介護保険、居宅介護、訪問介護、訪問看護、訪問リハビリテーション、訪問薬剤指導、退院支援、退院調整、ケアプラン、介護支援専門員(ケアマネジャー)、CGA、ICF、褥瘡、オレンジプラン、医療的ケア児、訪問歯科事業など）。演習するケースに関する福祉・医療に関する事項について調べる。多職種連携に関するビデオ教材を視聴する。

【復習】

- ・各回の終了後に、学習内容を自分の言葉でまとめる。

【演習施設】

大学の教室と本学附属地域包括ケアセンター、本学附属病院、指定された医療機関・福祉施設をオンラインで接続して演習をおこなう

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

- ・心の問題にかかわる職業人として必要な幅広い教養と専門的知識を修得している。
 - ・社会の変化、科学技術の進展に合わせて、教養と専門性を維持向上させる能力を修得している。
 - ・社会の様々な分野において、心の問題を評価し、それを適切に判断し援助できる基礎的技能を修得している。
- 上記に掲げる心理科学部のディプロマ・ポリシーに適合している。

【実務経験】

薬剤師：浜上 尚也・櫻田 渉・岩尾 一生

歯科医師：越野 寿・永易 裕樹

看護師：竹生 礼子・川添 恵理子

社会福祉士：巻 康弘・中田 雅美

公認心理師：安部 博史

理学療法士：澤田 篤史

作業療法士：本家 寿洋

言語聴覚士：黒崎 芳子

臨床検査技師：小野 誠司

歯科衛生士：岡橋 智恵・秋元 奈美

【実務経験を活かした教育内容】

医療人としての実務経験を活かして、公認心理師等として持つべき多職種連携医療の実践につながる教育を実施している。